

## 実践報告

# 札幌市立北の沢小学校

継続研究 3 年目

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究

- 豊かな体験や考える場・実践の場を通して生命尊重と相手の人権を尊重する心、好ましい人間関係の確立や社会性を育成する。
- 自然や人間の尊さを知り、他人の痛みが分かる心の優しさ・情操を育成する。

4年生の社会科および道徳・総合的な学習の時間と関連させてアイヌ民族の文化や歴史を学習し、その理解の深化を図るため、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」での体験プログラムを活用した学習を行った。また、人権感覚を総合的に育むため思いやりや人との関わり方、自他の尊重について考える学習を道徳等の教育活動で推進した。

### (2) 実践の内容

【実践①】サッポロピリカコタンで学ぶ「自然と人の心」（社会科）

○ねらい

アイヌ民族の歴史や文化を通して、自然と共生した生き方について理解を深める。

○学習内容

- 1) 4年社会科：「きょう土のはってんにつくす」における小単元：「アイヌ民族の生活と文化」の学習としてアイヌ民族の自然観や衣食住等の暮らしに関する調べ学習を進める中で、歴史や文化について理解する。
- 2) 資料を活用し、簡単な言葉や身近な地名の由来について理解する。
- 3) アイヌ文化交流センターの活動プログラムを知り、見学の視点をつくる。
- 4) 札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」で見学・体験活動を行う。

- ・歌や踊り、子ども遊びを体験する活動を通じてアイヌ民族の文化に親しむ。
- ・アイヌ民族の方から歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識を高める。
- ・施設見学を通じ、展示物の見学や民具等の実物に触れたり体験したりしながら、アイヌ民族の文化と歴史について理解する。



チセ内での解説・講話



子ども遊びの体験



「歴史の森」の見学



展示室の見学

- 5) アイヌ民族のくらしや文化について学習したことをレポートにまとめ、校内に展示・発信する。

### 【実践②】相手を思いやる心について学ぶ（道徳）

#### ○ねらい

- 人権の基本を学び、自他や自然の尊重について考える。  
人との関わり方を通じて、思いやりや自分の言動について考える。

#### ○学習内容

- 1) 道徳副教材「わたしたちの道徳」小学校3・4年における「2：人と関わって」と「3：命を感じて」を関連させ、自他や自然の尊重について学習する。
- 2) 実践①で学んできたアイヌ民族の文化にかかわる学習と道徳を関連させ、自然や他者に向ける思いやりの心や人権の尊重について考える。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・研究推進校として研究を継続して行ってきたことで、アイヌピリカコタンにおける活動プログラムを軸に、毎年、事前事後の学習の在り方を工夫・改善することができ、教育課程において大きな成果を挙げることができた。

<26年度>「知ること・分かり合うこと」を学ぶ

#### ○子どもの学びの姿

アイヌ神謡集をはじめとするアイヌ民族の文化や歴史にかかわる様々な書籍・資料に興味をもつ児童が増え、ピリカコタンの情報コーナーで書籍を読み内容について交流する姿が多く見られた。

<27年度>「自分らしく生きること」の大切さを学ぶ

#### ○子どもの学びの姿

子ども未来局配付パンフレット「大切にしよう子どもの権利」を活用し、人権および子どもの権利にかかわる4つの権利（安心して生きる・自分らしく生きる・豊かに育つ・参加する）の大切さについて考えた。

<28年度>「相手を思いやる心」について学ぶ

#### ○子どもの学びの姿

アイヌ民族の文化や歴史について学んだことを道徳と関連させ、「自分らしく生きる大切さ」の学習につなげることができた。また、図書館モデル公開授業での購入図書の一部に「カムイチカプ」等の絵本を購入し、2年生においてもアイヌ民族の文化に対する理解を深めることができた。

人権教育学習の柱  
アイヌピリカコタン活動プログラム

#### ② 課題

- ピリカコタン訪問を行わない学校の場合、アイヌ民族の伝統・文化資料の借用や講師の派遣等を積極的に取り入れていく必要がある。また、毎年、計画を検証・改善することが何よりも重要である。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- 教材研究において、アイヌ文化振興・研究推進機構から提供されている各種絵本、DVD等の映像教材、児童向け副教材や教師用指導資料を有効に活用することが大切である。